



成果指標					
成果指標					0
指標設定の考え方	対象児童の保護者からの申請件数				
区分年度	24年度	25年度	26年度		
目標	0	2	2		0
実績	0	0	0		0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	対象となる中・軽度難聴児童の把握がむづかしく、学校の耳鼻科検診で要医療となり、補聴器等が必要と医師が診断し、手帳を取得する級に該当しない児童であるため、病院受診前に保健担当教諭から保護者に情報提供する手段を検討しなければならない。また、障害児相談支援員や特別支援連携協議会等において、制度説明を行い、関係機関と連携して必要とする児童の支援を行いたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	障害児相談支援員や特別支援連携協議会等において補聴器が必要とする児童などの支援が必要であるそれには、病院と保護者の密接なつながりが大切と思える。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題